



2026年7月23日

各 位

会 社 名 ク リ ン グ ル フ ァ ー マ 株 式 会 社
住 所 大 阪 市 北 区 中 之 島 四 丁 目 3 番 5 1 号
Nakanoshima Gross 未来医療 R&D センター10 階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号: 4884 東証グロース)
問 い 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

当社が支援する北米脊髄損傷コンソーシアムによる 外傷性頸髄損傷に関する論文、国際学術誌への掲載のお知らせ

当社は、当社が支援する北米脊髄損傷コンソーシアム (North American Spinal Cord Injury Consortium: NASCIC) による、外傷性頸髄損傷の当事者にとって「臨床的に意味のある改善」とは何かを当事者中心の視点から考察した論文が、このたび国際脊髄学会 (International Spinal Cord Society: ISCoS) の学術誌「Spinal Cord」に掲載されましたので、お知らせいたします。

本論文は、NASCIC が米国及びカナダの外傷性頸髄損傷の当事者へのインタビューを通じて、回復の優先事項や日常生活への影響について検討しました。その結果、手・腕の機能、排尿・排便機能、体幹安定性が患者にとって特に重要な回復目標であり、わずかな機能改善であっても、自立性の向上や介護負担の軽減、生活の質 (QOL) の向上につながることが示されました。また、本論文は、従来の評価指標では十分に捉えられない患者・当事者にとっての価値ある改善を適切に評価する重要性を示すとともに、患者中心のアウトカム指標や臨床試験デザインの必要性について提言しています。

当社は現在、脊髄損傷急性期を対象としたオレメペルミン アルファ (組換えヒト HGF タンパク質) の開発を進めています。今後も患者・当事者の視点を重視した研究開発を推進し、脊髄損傷患者のアンメットメディカルニーズに応える革新的な治療法の実現を目指してまいります。

【論文情報】

英文タイトル: Redefining Clinically Meaningful Improvement in Traumatic Cervical Spinal Cord Injury: A Participant-Centered Perspective From Community Feedback Sessions

(和訳: 外傷性頸髄損傷における臨床的に意味のある改善の再定義: コミュニティからのフィードバックに基づく当事者中心の視点)

著者名: Ian Burkhart, Marco Sorani, Gabriela Ocampo

掲載誌: *Spinal Cord* (オンライン版)

DOI: <https://doi.org/10.1038/s41393-026-01244-8>

URL: <https://www.nature.com/articles/s41393-026-01244-8> (オープンアクセス)

以上

NASCIC について

北米脊髄損傷コンソーシアム（North American Spinal Cord Injury Consortium：NASCIC）は、脊髄損傷当事者、医療従事者、研究者、関連団体等が連携し、脊髄損傷者の生活の質の向上と医療・研究の発展を目指す非営利団体です。患者コミュニティの声を重視した活動の特徴とし、政策提言、教育・啓発活動、研究支援等を通じて、脊髄損傷領域における包括的な取り組みを推進しています。

脊髄損傷について

外傷性脊髄損傷は、交通事故や転倒などにより脊髄が損傷されることで生じ、運動機能、感覚機能および自律神経機能に障害を来す状態です。米国における外傷性脊髄損傷の年間発生率は、人口 100 万人当たり約 54 例とされており、これは年間約 18,482 例の新規外傷性脊髄損傷の発生に相当します。また、米国では外傷性脊髄損傷を有する患者数は約 311,560 人と推定されています。近年では、不完全四肢麻痺が最も頻度の高い神経学的分類であり、退院時点で完全な神経学的回復が認められる患者は 1%未満と報告されています*。

*出典：National Spinal Cord Injury Statistical Center. Traumatic Spinal Cord Injury Facts and Figures at a Glance, 2026.

HGF（Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子）について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之センター長及び同大学医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果の可能性は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象に HGF タンパク質医薬品の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、HGF タンパク質医薬品のレイトステージの開発パイプラインでは、国内において脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験を終了し、さらに追加臨床試験開始に向けた準備を進めています。また、国内において声帯癬痕を対象とする開発は第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。